Izumo High School

GLOBAL REPORT

第 35 号　2 月 22 日

真の「国際交流」って何だろう？

～コミュニケーション通じた喜び～

NPO 日米グリーンバンド協会
代表　熊谷　譲

はじめに　出雲高校との関係について

出雲高校の皆さんこんにちは。私は NPO 法人で２０年近く音楽を通じた国際交流活動に取り組んで参りました。出雲高校との関係でいいますと、これまで吹奏楽部の皆さんと２回海外遠征にご一緒しており（米国のフロリダとフランスのパリ）、その他、世界最大規模のパレードと言われる米国におけるローズパレードに選抜バンドとして出雲高校から多数の部員の皆さんにご参加頂いております。

（右から熊谷さん、グリーンバンド現地コーディネーターのエミコさんと 2019 年ローズパレード出雲選抜マーチングバンド関係者）

（2013 年ローズパレード出雲選抜マーチングバンド）

英語が大の苦手だった私を変えてくれたカリスマ家庭教師

今は、国際交流の仕事をしている私でありますが、高校２年生までは、とにかく英語が苦手で、かつ好きではありませんでした。好きでなかった理由は、文法が嫌いで、正直学んでいても何も楽しくなかったからでした。

そのような英語嫌いな私でしたが、高校２年の時に、大学受験を考えて、家庭教師について頂くことになりました。その家庭教師は、当時京都大学の法学部に１番の成績で入学された方でした。

その家庭教師の勉強方法は至ってシンプルであり、とにかく脳の記憶のメカニズムを理解して、最も効果的な反復学習によって、短期記憶から長期記憶に知識を保存していくというものでした。

① まず最初に取り組んだのは、主要な英語の構文を正しい発音で、毎日150例題を音読して覚えることでした。

他にも色々な勉強方法がありますが、この方法が今でも最も効果的な学習方法だったと思います。まず、構文の中に出てくる英単語は、既に知っている簡単な単語でも、全て辞書で発音記号を調べて、正しい発音を単語の下に書き込みます。まず、この作業をしていくと、いかに日本人が間違った発音で英単語を覚え込んでいるかということが分かります。日本人は長文読解はできても、リスニングや会話になると、全くネイティブの言っていることが理解できず、またこちらが話している英語も全く理解してもらえないというのは、英語の正しい発音を理解せず、間違った日本語発音に慣れ切っていることに外なりません。

もちろん、発音記号や発音を勉強するために、発音のための参考書がいくつか出ていますので、書店などで自分にあったものを買われてみるといいです。

また、単語の発音だけでなく、イントネーションやどこで区切るべきかということを、毎日何度もネイティブが話している CD などで確認していきました。

この勉強をする意味で大切なのは、これにあまり時間をかけ過ぎないということです。おそらく皆さんは、学校や塾の宿題だけで精一杯という方も多いかと思いますので、１日この構文音読に２０分だけ時間を使うという感じで、少しずつ１日に音読する構文の量を増やしていくことです。最初の方は、読むのにも時間を要していたものが、１ヵ月もこれを続けていると、２０分あれば、１５０構文を最初から最後まで読み切ることができます。それに、気が付けばネイティブのような美しい発音が身についているんです。「どこか留学していたの？」と聴かれるようになると、勉強の成果が出てきている証拠です。そして、この勉強をしていくと、文法の意味をいちいち考えなくても、日本語を考えるように、自然と英語が出てくるようになることです。また、音読を毎日することによって、確実に頭が英語脳に切り替わっていきます。

また、夜寝る前には、ネイティブのＣＤなどを聴きながら寝るというのも、とても効果的です。どれだけ部活動が忙しくても、塾の勉強が忙しくても、この２０分間を確保できる人は、将来英語を自分のものにできる人だと思います。いくらいい大学に入れても、ほとんどの人はすぐに英語を忘れてしまいますし、とてももったいないと思うばかりであります。

② イメージで英単語を覚え、正しい発音に修整していく

この勉強方法に関しては、先生方においては、意見が分かれるところなんですが、私のように記憶力の悪い人間にはとても効果的だったので、ご紹介したいと思います。

いわゆる世界史や日本史の年表をゴロで覚えたことのある方は多いかと思いますが、英単語も、いわゆるゴロやダジャレで覚える書籍がいくつかあります。

この覚え方は、①で述べた正しい発音を覚えるやり方と矛盾していると思われる方が多いかと思いますが、まずは右脳でイメージで頭の中にインプットさせた上で、あとは、徹底的に発音を修正することによって、最初のダジャレの部分は忘れていても、何故か正しい発音で、頭の中（長期記憶）に残ると言われています。実際私自身、ゴロで６０００語以上の英単語を覚えることができ、未だに頭の中に残っています。もちろん、ゴロでなく、語源や単語の構成要素を学ぶことによっても大きな成果は得られます。

③　記憶のメカニズムを理解する

構文の音読は、とにかく毎日やることですが、英単語に関しては、毎日何千単語もやるわけにはいかず、やはり右脳でイメージで覚えるだけでなく、頭により定着させる方法を考える必要があります。いわゆる反復する場合の周期的な要素なんですが、まず、一度覚えたものは、必ず次の日に復習をするということです。人間の脳は、よほど記憶力の良い方を除いては、大抵覚えたことの半分は翌日には忘れるといいます。ですので、まずは翌日に復習するだけで、脳へのインプットはかなり効果的に行えるわけです。更に３日後さらに復習し、１週間後も復習すると、大抵の場合は長期脳の方に記憶が完了します。とても面倒で大変な作業のように思われるかもしれませんが、これをやっておくと、大学受験の時に本当に重宝すると思います。高校３年になって、慌てて高１や高２で勉強をしたことを思い出すのはとても大変で骨の折れる作業となりますが、各学年での勉強を、少し時間をかけて長期脳に保管をしておけば、３年になって慌てることなく、少しの振り返りだけで無理なく受験に挑めるようになると思います。

④ 自分の好きな分野の長文を多読する

正直上の①②③だけでも十分なのですが、将来本気で留学を考えたり、英語を使った仕事に就きたい方は、ネットなどで、自分の関心のある分野の英文の記事を探して、とにかく速読感覚で多くの英文を読むことです。少々の単語の意味が分からなくても、大方の意味が分かれば十分です。もちろん、受験の長文読解の際にも、とても効果があります。

とにかく「国際交流」にかかわる仕事がしたかった 20 代

①外務省へのあこがれ

私は大学、大学院と、勉強の虫になり、趣味は古本屋で学術書を買い漁るような日々でありました。もちろん、その間にも大学の ESS の部長をしたり、中米グアテマラの人権擁護のための講演会や活動を学内で開催したりと、積極的に英語や国際交流・国際協力分野でのネットワークを広げて参りました。今でも、その当時一緒に活動をしていた多くの学生が新聞記者や報道の分野の最前線で働いています。

そんな中、私が大学時代に一番なりたかった職業は、外務省に入って、国際交流関係の担当につきたいと強く願っていました。

結果、かなりの努力をするも、二次試験で不合格となり、私は当時あまり知られていない無名の国際交流を目的とした民間会社に就職をしました。私は大学の教授のほとんどと親しくなっていたこともあり、民間の無名の会社に就職するといった時には、どの教授からも止められ、大企業の法務部の紹介を多数受けましたが、あまり魅力を感じられず全てお断りしました。

②民間会社での苦悩

私の就職をした会社は、当時ホームステイや留学関係の老舗のような会社で、規模は小さい割に、全国展開していて、少数精鋭で、大手の旅行会社と張り合って、それなりのシェアのある会社でした。ただ、ノルマも大変多く、毎日終電の時間に何とか帰れるよう日々であり、大企業では分業化が進んでいる中で、全て１人でこなす必要のあることから、航空会社との交渉・手配から、現地の国際交流団体との交渉、保険業務からポスター・チラシの制作まで、何でもできるようになりました。

結局、とても過酷な時期を５年ほど過ごしましたが、営業スキルも身に着けることができ、最終的にはアメリカの大学からヘッドハンティングを受けて、そこで更に５年ほど勤務することに。

（日米グリーンバンド協会関係者）

③アメリカで NPO 法人を立ち上げる

以上のように民間の教育旅行会社やアメリカの大学で１０年近く経験を積んだ後、私は兼ねてからやりたかった国際交流、特に音楽を通じた国際交流活動を行うために、アメリカにわたりパートナーを探して、素晴らしい人々と出会い、約２０年間同じ活動を続けております。立ち上げた NPO 法人では、３０００人以上の高校生や大学生を海外に派遣して参り、その中には、高校時代の経験が切っ掛けとなって、海外留学をして、そのまま海外で就職をしている方や、それらの経験によって、ディズニーランドに就職をした方、また、英語の先生となって学校で教えている方を含め、様々な方々に影響を与えてきたかもしれません。

最後に

大変長くなってしまい、恐縮でありますが、私の個人的な経験などを分かち合わせて頂きました。性格的に同じ場所に留まりたくない方で、常に新しい出会いや交流を求める気質のようなものも、必然的に現在の仕事に行きついたのだと思っています。私の一番の後悔は、アメリカの大学に勤務していたにも関わらず、実際に自分自身が留学しなかったことであります。まあ、アメリカのビジネスパートナーに任せているところもありますが、自分自身がネイティブ並みの英語力があれば、どれだけ多くの、より素晴らしい出会いが有ったかと思いますと、是非若い内に１年でも２年でもいいので、海外に留学をして頂きたいと願っています。留学をする方法も様々で、私は「専攻分野別　アメリカ留学辞典」という本を書いていますが、またの機会にお話ししたいと思っています。

最後に、これは国際交流に限ったことではないですが、どのような仕事においても、コミュニケーションはとても大切であります。結局、相手が何を望んでいるかということを常に理解して行動できる人は、必ず大きな信用と信頼を得ることができますし、気が付けば本当に多くのネットワークを作れる人だと思います。

そして、海外の人々とコミュニケーションをしようとすれば、英語は必須でありますし、単なる受験英語のレベルではなく、一から勉強をし直すつもりで、発音記号や日常的な音読を毎日続けて参られることをお勧めしたいと思います。

最後までお読みいただき、誠に有り難うございました。私は島根県、特に出雲地方が大好きです。老後は出雲の地で過ごしたいと真剣に考えている今日この頃であります。是非、皆様のご活躍を心から祈念申し上げます。

（熊谷さんとグリーンバンドの国際交流プログラムへの参加者）

熊谷　譲（くまがい　ゆずる）

１９６９年生まれ

現在、世界遺産のある岐阜県白川郷に在住

同志社大学法学部卒業、同志社大学大学院法学研究科修了

株式会社アイエスエイ、フィラデルフィア州立 Temple University 広報部を経て、米国法人 JAEC 日米教育協議会を設立。現在 NPO 日米グリーンバンド協会代表理事。

主な著書、専攻分野別アメリカ留学辞典。

その他、「みちのく五郎」というバンドルネームで、各種テレビ番組にグルメコメンテーターとして出演。日本テレビの「笑ってコラえて」に出演した際に、京都橘高校吹奏楽部を紹介し、「マーチングの旅」シリーズが始まり、全国に空前のマーチングブームを引き起こしました。

YouTube チャネルは、「GBA1998」（吹奏楽関連）、「MICHINOKUGORO」（グルメ、白川郷ニュース、温泉ガイド、音楽関係）

～グローバルレポート担当　滋野紗世子～

　グローバルレポート担当を引き継いでから、「いつか熊谷さんにお願いしよう！」とずっと思っており、やっと実現させることができました。実は、私は熊谷さんの立ち上げた協会が最初に出雲高校の吹奏楽部を海外に派遣した時の部員の一人、そしてこの海外遠征がきっかけで進路を決めた一人でもあります。生徒のほとんどが海外未経験、部活動単位で海外に行くなんて未知の出来事。この遠征を実現させるためにどれだけの協力があっただろうと、教員側の立場になった今なら容易に想像できます。

　個人的な話ですが、私は当時「これだけ便利な日本にいるんだから、海外に行かなくたっていいでしょ？」と海外に行きたいなんて微塵も思っていませんでした。しかし、初めて訪れたアメリカでは、「今まで見ていた当たり前を覆すこと」ばかり。演奏に感動したお客さんからのスタンディングオベーションやホストファミリーの高校生が車を運転して学校へ連れていってくれたことなど、あらゆる出来事に「知らない世界を知るって面白いな」と思いました。熊谷さんの活動に、人生を変えてもらったと言っても過言ではないくらいです。

　さて、今回執筆してくださった熊谷さん。今の活動の裏にこんなに強い探求心を持ち、努力をされ続けた方だと知り感動しました。後日談で、「外務省に入れなかったのは結果良かったですよ！僕がしたかった国際交流は今の団体で実現できましたから！」とおっしゃられ、あきらめなければ手段が変わっても夢は叶うのだな、と改めて気づかされました。

　以前のように自由に海外を行き来できる日が戻るにはもう少し時間がかかりそうですね。しかし、物理的制限があっても、みなさんの好奇心を刺激し、何かを追い求めていくことには制限はありません。大学に入るための勉強だけでなく、もう一歩先にある「勉強をすることで見えてくる世界」を想像しながら、一日一日を過ごしていってくださいね！